

12/11 東京都内で土浦の魅力発信 土浦産そば焼酎「土浦小町」発売記念キャンペーン



東京銀座にあるアンテナショップ IBARAKI senseで、11月に販売を開始したそば焼酎「土浦小町」の発売記念キャンペーンが行われました。IBARAKI senseは、茨城県の名産品などを首都圏でアピールするための店で、今回は安藤市長自ら店頭に立ち、通りを行き交う人に声を掛けました。試飲をした人からは、「まろやかでおいしい」と評判が良く、JA水郷つくば提供のれんこんや、焼酎の元となる常陸秋そばの実の無料配布とあわせて、キャンペーンは大盛況に終わりました。

12/15・17 義足で走ってきた道 「いばらき教育の日」推進事業 講演会



自転車競技でパラリンピック4大会連続出場を果たしたメダリストの藤田征樹選手が、土浦第一中学校・第五中学校で講演会を行いました。講演では、藤田選手が自身の人生に触れ、これまでどのような苦難に直面し、どう乗り越えてきたかを熱く語りました。義足での競技やパラリンピックでの経験を交えながら、「夢や希望を持ち、自分を信じ続けてほしい。また、周りで支えてくれている人を大事にしてほしい」と、藤田選手から生徒たちにメッセージが送られました。

12/20 夢に向かって 土浦第六中学校創立40周年記念講演



3×3バスケットボール日本代表の落合知也選手が母校の土浦第六中学校で、「夢」をテーマに講演を行いました。落合選手は自身の体験を通して感じた「ポジティブでいること」、「準備を整えて物事にあたること」の大切さを伝え、生徒たちも真剣な眼差しで聞き入っていました。また、講演後には生徒たちとドリブル対決などで触れあい、落合選手が、プロ選手ならではの華麗なプレーを披露すると、大きな拍手が体育館中に響き渡りました。

12/25 文芸を通じて地域振興 常陸國小野小町文芸賞表彰式



今年は、短歌・俳句をあわせて4700作品の応募があり、短歌部門で芳山三喜雄さんが、俳句部門で茂呂典正さんが大賞を受賞しました。代表謝辞で芳山さんは、「短歌に取り組むようになり、初めて応募をしたのがこの文芸賞。だから特別の思い入れがある」と喜びを語りました。大賞受賞者の直筆の作品は額装をされ、小町の館で令和4年の12月まで展示されます。ぜひご覧ください。なお、芳山さんは皇居での「歌会始の儀」でも入選をしています。